



ADRC Highlights

Vol.40

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

February 1, 2002

- **第4回アジア防災センター国際会議を開催**
- **22カ国および10の国際機関の防災専門家がデリー(インド)に集合**

アジア防災センターは、昨年まで3回の国際会議を神戸で開催してきましたが、今年はインド西部地震(グジャラート地震)から1年を経たインドデリーにおいてインド政府、アジア防災センターの共催で1月22日(火)~23日(水)の2日間にわたり、アジア22カ国の政府防災担当、国連等10の国際機関の防災専門家約80名出席のもと実施しました。

会議では「グジャラート地震の教訓」として、インド政府、メンバー国、関連機関で、防災体制の整備、防災教育、市民参加などの重要性が再認識されるとともに、これまでのアジア防災センター国際会議等で培われた人的ネットワークおよび相互の信頼関係が緊急支援受け入れ等で非常に有効であったことがインド政府から報告されました。

「防災能力向上のための国際協力プロジェクト」、「防災情報共有化の推進」については、「総合的な防災危機管理の必要性」が確認され、各国の実状に合わせた人材育成のため一層の防災協力の推進、これらの活動を支援する衛星・インターネット等最新技術を駆使した災害・防災情報の共有化を推進することが合意されました。

アジア防災センターは、引き続きメンバー国・関連機関が持つ人的、物的資源と知見を駆使して防災協力を推進し、21世紀のアジア地域における自然災害被害の軽減を推進していくことが確認されました。

また、アジア防災センター国際会議に続いて「国連国際防災戦略会議アジア会合」が大島国連事務次長出席のもと開催されました。アジア防災センターはその人的ネットワークと持つノウハウを活かし国連国際防災戦略活動のアジアの拠点としても活動していきます。



[*副題をクリックすると参加者リストが表示されます。](#)

- **ADRC スタッフ紹介 No. 1**
- **研究員 遅野井 貴子**



昨年6月よりアジア防災センター(東京支部)で勤務している遅野井と申します。それまでは、都市防災研究所で、主に都市計画、政策を通してより安全な環境を作っていくのかといった研究を行ってまいりました。災害被害の軽減には、ハード面を含んだ意味での都市

計画や、自主防災といった考えも含んだ政策といったソフト面の両立が大切だと考えます。

出身は東京都ですが、大学はアメリカで「建築と都市デザイン」を専攻し「都市政策論」を副専攻しておりました。卒業までニューヨークで過ごした中で、アジアの多くの国々の方と接する機会がありました。大学の寮には、中国、韓国、タイといったアジアの国々

から来た人が多く住んでいて、よく夜明けまで話し込んでいました。その中で、アジアには本当に様々な文化があること、また、必ずどこか通じあうところがあることを実感しました。今後のアジアにおける災害情報を共有、そして災害被害の軽減にむけて、お互いの文化、政治、政策を知り、相違点・共通点を明確にしてそれぞれの地域にあった今後の防災対策を共に考えていければと思います。

まだアジアの国では、タイ、インドネシア、フィリピンにしか行った事ありませんが、今後もっとアジアの国々のことを知りたいと思います。そして、自分も含めたアジアの人々がもっと安全にすごせるような環境を作っていくことに貢献していければと思います。よろしくお願いいたします。

- **アジアにおける最新災害情報**
- **インドネシアで洪水による被害が拡大**

1月28日より降り続いた豪雨により洪水がインドネシアの広い範囲でおこり、首都ジャカルタおよびその他の都市で被害が拡大しました。2月1日現在、33名が死亡、20万の住民が住居を失っています。30日にはジャカルタの2割余りが浸水したと報告されています。

(2月1日 BBC ニュースなど)

<p>ご意見・ご要望等があれば 右記までご連絡ください。</p>	<p>編集・発行： Asian Disaster Reduction Center(アジア防災センター) 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 IHDビル3F E-mail: editor@adrc.or.jp TEL: 078(230)0346 FAX: 078(230)0347 誌代・送料： 無料 / 毎月2回発行(予定)</p>
--------------------------------------	--